



TITLE:

(4,7)-、(5,6)-マーキングネットワークの最小比較器数のコンピュータによる計算 (離散的アルゴリズムと計算量)

AUTHOR(S):

丹野, 岳久; 岩田, 茂樹

CITATION:

丹野, 岳久 ...[et al]. (4,7)-、(5,6)-マーキングネットワークの最小比較器数のコンピュータによる計算 (離散的アルゴリズムと計算量). 数理解析研究所講究録 1998, 1054: 40-53

ISSUE DATE:

1998-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/62280>

RIGHT:

(4, 7)–、(5, 6)–マージングネットワークの 最小比較器数のコンピュータによる計算

電気通信大学 丹野 岳久 (Takehisa Tanno)

電気通信大学 岩田 茂樹 (Shigeki Iwata)

(m, n) –マージングネットワークの最小比較器数を $M(m, n)$ で表す。本稿では $M(4, 7) = 16$ 、 $M(5, 6) = 16$ を示す。いずれもマージングネットワークが 15 比較器からなると仮定し矛盾を導く。考えられうるすべての 15 比較器からなるネットワークを構成し、そのすべてのネットワークがマージングネットワークでないことをコンピュータで検証した。コンピュータの計算において分散処理の手法を用い複数の計算機を使用した。

1 まえがき

m 個からなる要素 $x_1 \leq x_2 \leq \cdots \leq x_m$ と n 個からなる要素 $y_1 \leq y_2 \leq \cdots \leq y_n$ を入力とし $m + n$ 個の要素を出力するネットワークを考える。出力が $m + n$ 個の要素 $z_1 \leq z_2 \leq \cdots \leq z_{m+n}$ のとき、このネットワークを (m, n) –マージングネットワークあるいは単にマージングネットワークという。マージングネットワークはいくつかの比較器からなっている。比較器は図 1 の形をしており、それ自身が $(1, 1)$ –マージングネットワークである。 (m, n) –マージングネットワークを構成するのに必要な最小比較器数を $M(m, n)$ と

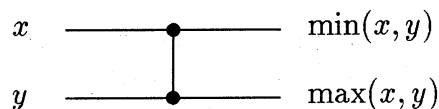


図 1: 比較器

する。

Batcher [1] は odd-even 法により (m, n) –マージングネットワークの最小比較器数の上界を示した。また Yao and Yao [2] は $M(2, n) = \lceil 3n/2 \rceil$ を、Aigner and Schwarzkopf [3] は $M(3, n) = \lceil (7n + 3)/4 \rceil$ を示した。最近、増田、岩田 [4] は $M(4, 5) = 12$ を証明し、さらにコンピュータを用いた計算により $M(4, 6) = 14$, $M(4, 8) = 17$ を示した。コンピュータの計算による下界の証明は、9 要素のソーティングネットワークで深さ 6 のネットワークが存在しないことを求めた Parberry の計算 [5] が知られている。

本稿では $M(4, 7) = 16$, $M(5, 6) = 16$ を示す。 $15 \leq M(4, 7) \leq 16$, $15 \leq M(5, 6) \leq 16$ であることが知られていた。本稿ではどちらのネットワークも 15 比較器で構成できると仮定し矛盾を導き出す。いずれの場合もコンピュータの計算により下界を求めた。

このような種類の計算は基本的には木の探索を行うことである。しかし木の大きさが膨大になり、単純な計算方法では計算時間がかかりすぎて、合理的な時間内に計算が終了しない。そこで枝刈りや計算を早めるための手法をどのように用いるかが重要となり、それ無しには合理的時間内に計算が完了できないことになる。

(m, n) -マーキングネットワークにおいて、入力要素が $z_i \in \{x_1, x_2, \dots, x_m, y_1, y_2, \dots, y_n\}$ である水平の線を入力行 z_i と呼ぶ。マーキングネットワークにおいては、入力行 x_i の添字の値が大きい入力線ほどネットワークの下位に位置し入力行 y_i についても同様である。任意の入力行の並びをもつマーキングネットワークから他の入力行の並びをもつマーキングネットワークに比較器の数を保存する変換が存在する ([6, p.239, Exercise 16] を参照)。比較器を表すのに $[z_i : z_j]$ と書く。これは比較器の上端が入力行 z_i であり、下端が入力行 z_j であることを示す。また $\uparrow z_i$ や $\downarrow z_i$ も入力行を表し $\uparrow z_i$ は比較器の上端あるいは下端が入力行 z_i かそれより上側にあること、また $\downarrow z_i$ は比較器の上端あるいは下端が入力行 z_i かそれより下側にあることを表す。

z_i, z_j, z_k, z_ℓ をそれぞれ上から i, j, k, ℓ 番目の入力線を表すとする。そのとき 2 比較器 $\alpha = [z_i : z_j], \beta = [z_k : z_\ell]$ に対して $\alpha \leq \beta$ が成り立つとは、 $(i < k) \vee [(i = k) \wedge (j < \ell)]$ が満たされるときである。つまり、 α の上端が β の上端よりもネットワーク上の上位にあるか、 α と β の上端が同じ入力行でかつ α の下端が β の下端よりもネットワーク上の上位にあるときである。同じ入力行に連結する 2 比較器 α, β に対して、 α が β より入力側に近い方にあるとき $\alpha < \beta$ とかく。

マーキングネットワーク中で入力行 x_i, y_j を含む隣接する複数の入力行とそれら複数の入力行中に含まれる比較器で作られたネットワークをサブネットワークという。このとき次の補題が成り立つ。

補題 1 サブネットワークはマーキングネットワークである。

(証明) マーキングネットワークを N 、 N のサブネットワークを N' とする。いま N' がマーキングネットワークでないとする。ある入力 I が存在して、 I は N' でソートされない。いま N の N' より上側に位置する入力行には I 中の最小の要素よりも小さい値を、 N' より下側に位置する入力行には I 中の最大の要素よりも大きい値を入力した N' には I を入力とする。このような入力のもと N においては N' への入力と N' 以外の入力線の間に交換が起きないことに注意する。仮定より N' はマーキングネットワークではないので N' の中はソートされない。すなわちこの入力のもとでは N は入力をソートせず、したがって N はマーキングネットワークではない。これは最初の仮定と矛盾する。よって N' はマーキングネットワークである。□

隣接する 2 入力行を結ぶ比較器を隣接比較器と呼ぶ。隣接する 2 入力行 x_i, y_j が存在するならばその 2 入力行からなるサブネットワークは $(1, 1)$ -マーキングネットワークであるのでその 2 入力行間には隣接比較器が存在する。隣接比較器以外の比較器を非隣接比較器と

呼ぶ。どのような入力に対しても入力要素の入れ替えが起きない比較器を冗長比較器と呼ぶ。 $M(m, n)$ 個の比較器で構成される (m, n) -マーキングネットワークを (m, n) -最適マーキングネットワークよとぶ。明らかに次の補題が成り立つ。

補題 2 (m, n) -最適マーキングネットワークは冗長比較器を含まない。

補題 3 上 3 行の入力行が $x_1, y_1, z, z \in \{x_2, y_2\}$ である (m, n) -最適マーキングネットワークにおいて

- (1) 隣接比較器 $[x_1 : y_1]$ はただ 1 個存在する。
- (2) $[x_1 : \downarrow z]$ がネットワーク中に存在するなら $[x_1 : \downarrow z] \prec [x_1 : y_1]$ が成り立つ。

(証明) (1) 入力行 x_1, y_1 からなる N のサブネットワークは $(1, 1)$ -マーキングネットワークであり、隣接比較器 $[x_1 : y_1]$ が少なくとも 1 個存在する。2 個以上の $[x_1 : y_1]$ の形の比較器 $\alpha, \beta_1, \dots, \beta_n$ が N に存在し $\alpha \prec \beta_1 \prec \dots \prec \beta_n$ と仮定する。このとき α より出力側に位置する比較器 β_1, \dots, β_n ではどのような入力に対しても入力要素の入れ換えは起きない。よって β_1, \dots, β_n は冗長比較器であり、補題 2 より N が (m, n) -最適マーキングネットワークであることと矛盾する。

(2) N の中に $\alpha = [x_1 : y_1], \beta = [x_1 : \downarrow z]$ が存在し $\alpha \prec \beta$ であると仮定する。すると x_1 と y_1 はどちらも x と y の最小の値であるので (1) と同様に β では入力要素の入れ替えが起きない。ゆえに β は冗長比較器である。よって $\beta \prec \alpha$ が成立する。□

(m, n) -マーキングネットワークのすべての入力行に対して比較器が少なくとも 1 個は接続しているので次の補題が成り立つ。

補題 4 $\min(M(m+1, n), M(m, n+1)) \geq M(m, n) + 1$

補題 5 入力行が x_1, x_2, y_1 である $(1, 2)$ -最適マーキングネットワークは図 2 の 2 通りである。

(証明) 入力行 x_2, y_1 からなるサブネットワークは $(1, 1)$ -マーキングネットワークであるので隣接比較器 $[x_2 : y_1]$ が存在する。 $M(1, 2) = 2$ よりもう一つの比較器は $[x_1 : \downarrow x_2]$ である。この時考えられる比較器の形と位置関係は次の 4 通りである。 $[x_2 : y_1] \prec [x_1 : x_2], [x_1 : x_2] \prec [x_2 : y_1], [x_2 : y_1] \prec [x_1 : y_2], [x_1 : y_2] \prec [x_2 : y_1]$ 。しかし $[x_2 : y_1] \prec [x_1 : x_2]$ と $[x_1 : y_2] \prec [x_2 : y_1]$ の場合、入力要素 y_1 の値が最小のとき入力線 x_1 に移動できない。よって $(1, 2)$ -最適マーキングネットワークは図 2 の 2 通りである。□

補題 6 入力線の並びが $x_1, x_2, y_1, x_3, y_2, x_4$ である $(2, 4)$ -最適マーキングネットワークにおいて $[y_1 : x_3]$ という形の比較器を 2 個持つネットワークは存在しない。

(証明) $M(2, 4) = 6$ 個の比較器からなる $(2, 4)$ -最適マーキングネットワーク N が $[y_1 : x_3]$ の形の比較器を 2 個有すると仮定する。補題 5 と N の隣接比較器を考えると N は $[x_2 : y_1], [x_1 : z], (z = x_2 \text{ または } z = y_1), [x_3 : y_2], [y_2 : x_4]$ と 2 個の $[y_1 : x_3]$ からなる。このとき入力要素が移動するのに必要な比較器の位置関係について考える。入力要素 y_1 が入力線 y_2

に移動する場合を考えると $[y_1 : x_3] \prec [x_3 : y_2]$ である。また入力要素 y_2 が入力線 x_2 に移動する場合もあるので $[x_3 : y_2] \prec [y_1 : x_3] \prec [x_2 : y_1]$ である。入力要素 x_2 が入力線 x_3 に移動する場合を考えると $[x_2 : y_1] \prec [y_1 : x_3]$ である。しかしこれらの3条件を同時に満たすように N 中に2個の $[y_1 : x_3]$ を配置することができず、そのような N は存在しない。□

補題 7 [7] (3,3)-最適マージングネットワークは図3の4通りである。

補題 8 [4] (3,4)-最適マージングネットワークは図4の18通りとそれぞれの図の比較器の位置を入力行 y_2 に対して上下反転させた図5の18通りの合計36通りである。また入力行を上から $x_1, x_2, y_1, x_3, y_2, x_4, y_3$ とした (3,4)-最適マージングネットワークは図6とそれを上下反転した図7の合計36通りである。



図 2: (1,2)-最適マージングネットワーク

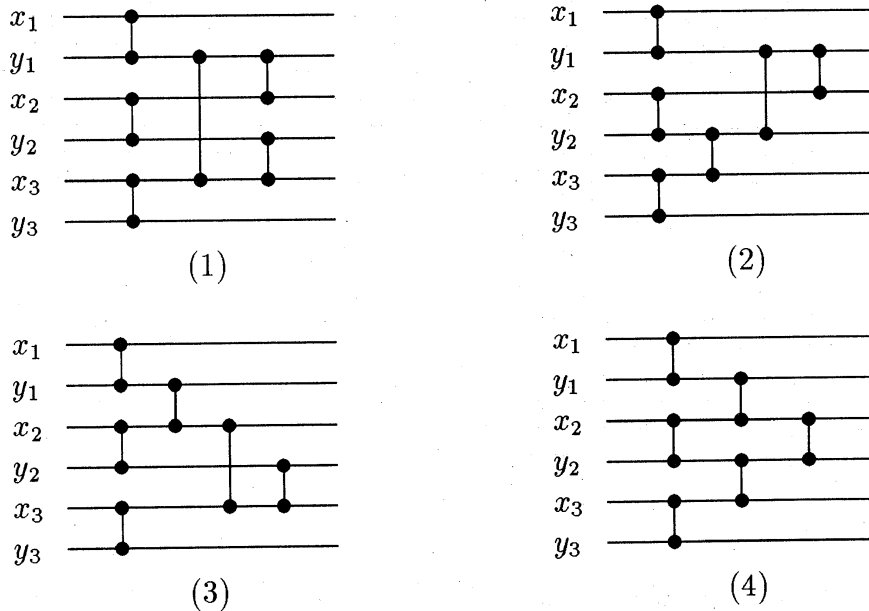


図 3: (3,3)-最適マージングネットワーク

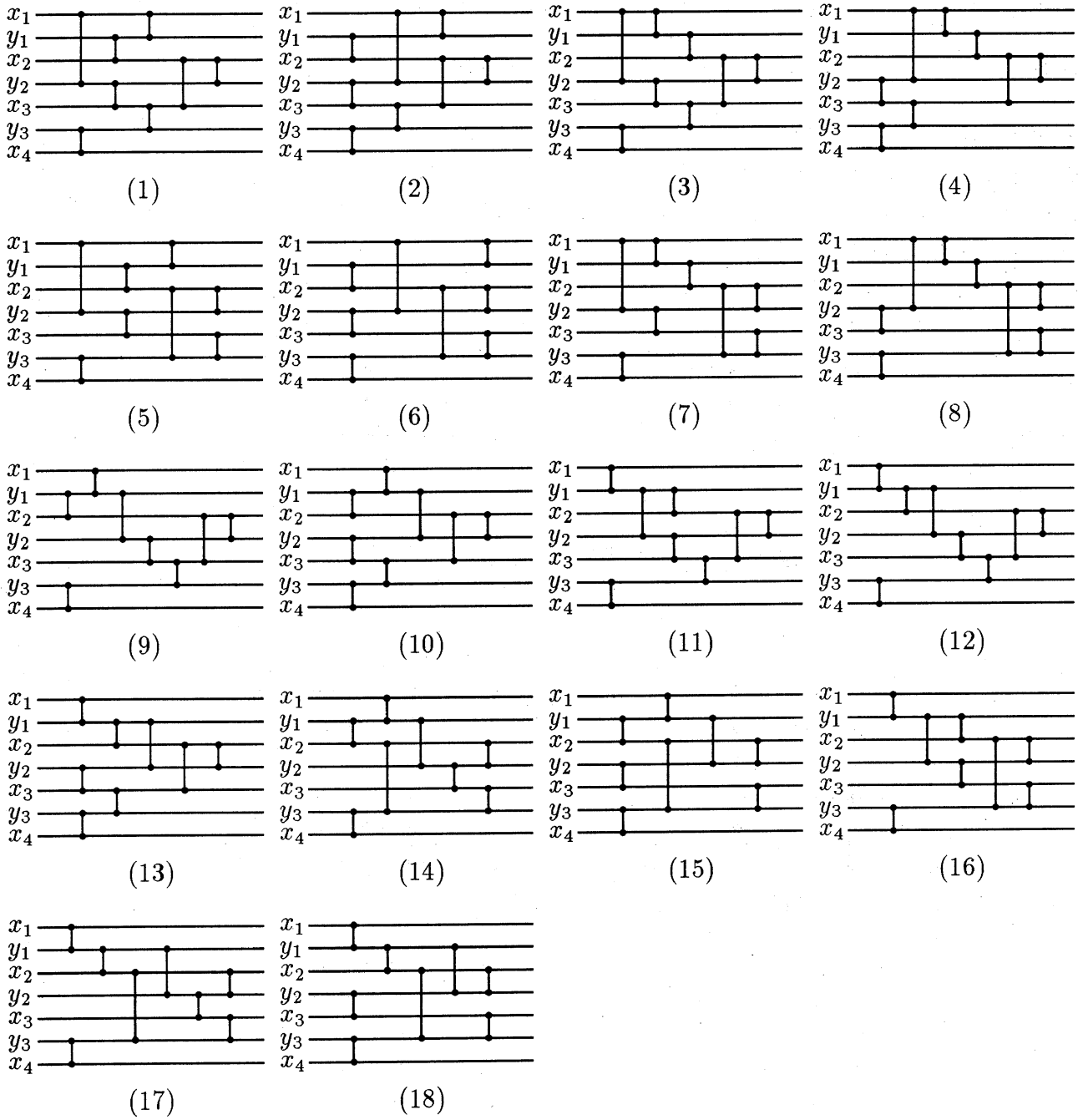


図 4: (3,4)-最適マーキングネットワーク (その 1)

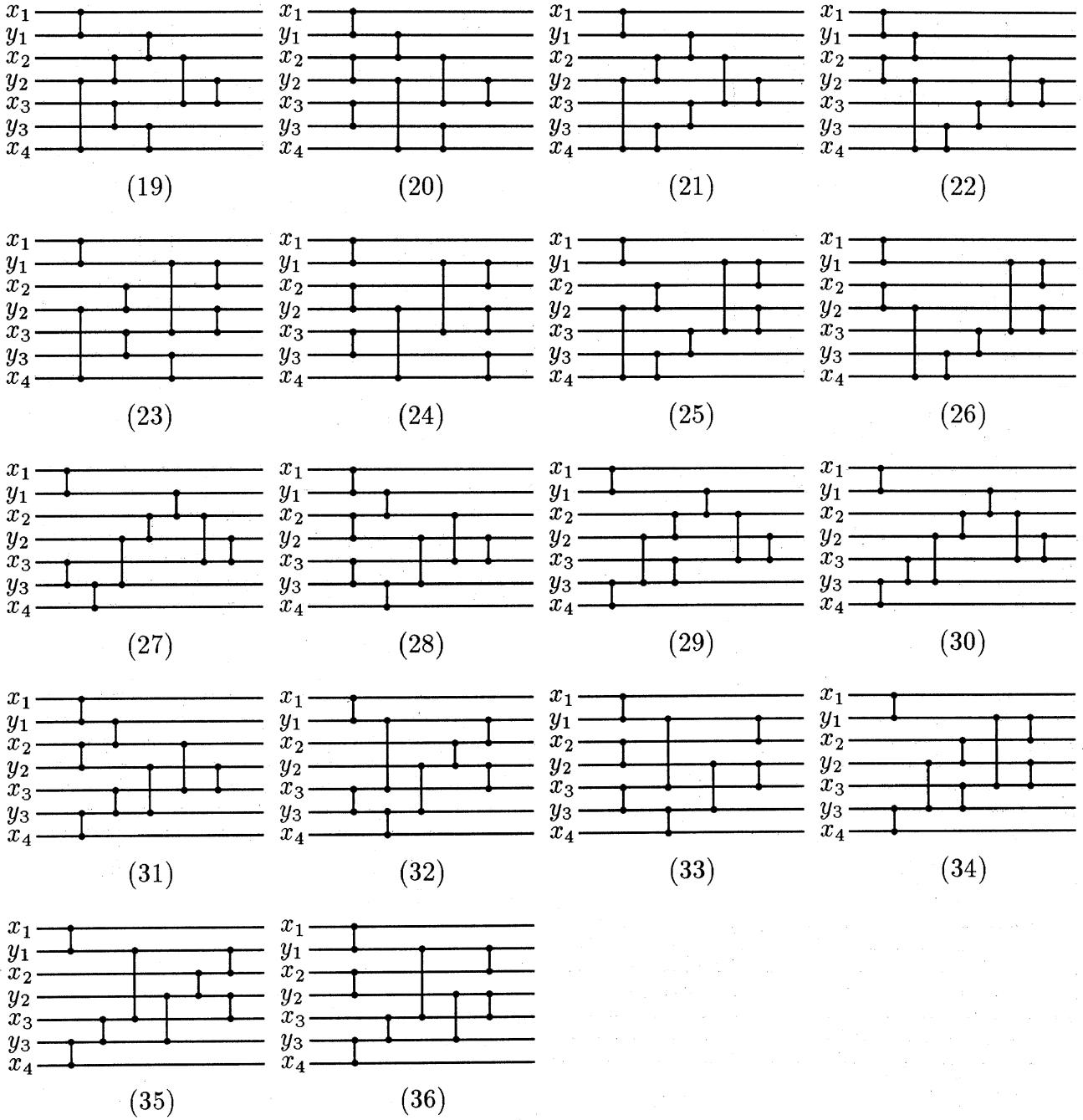


図 5: (3,4)-最適マージングネットワーク (その 2)

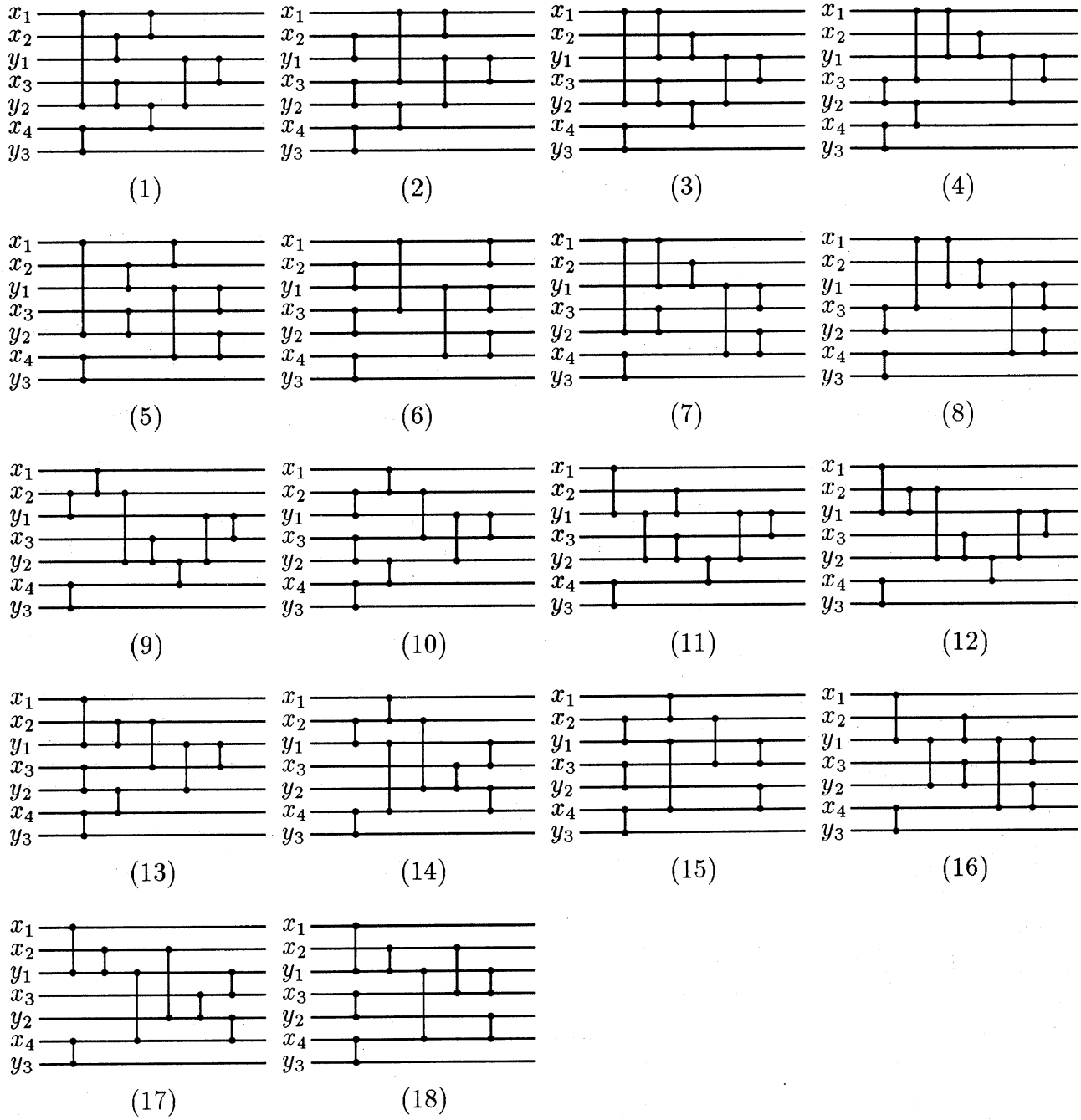


図 6: 入力行の並びを変えた (3,4)-最適マージングネットワーク (その 1)

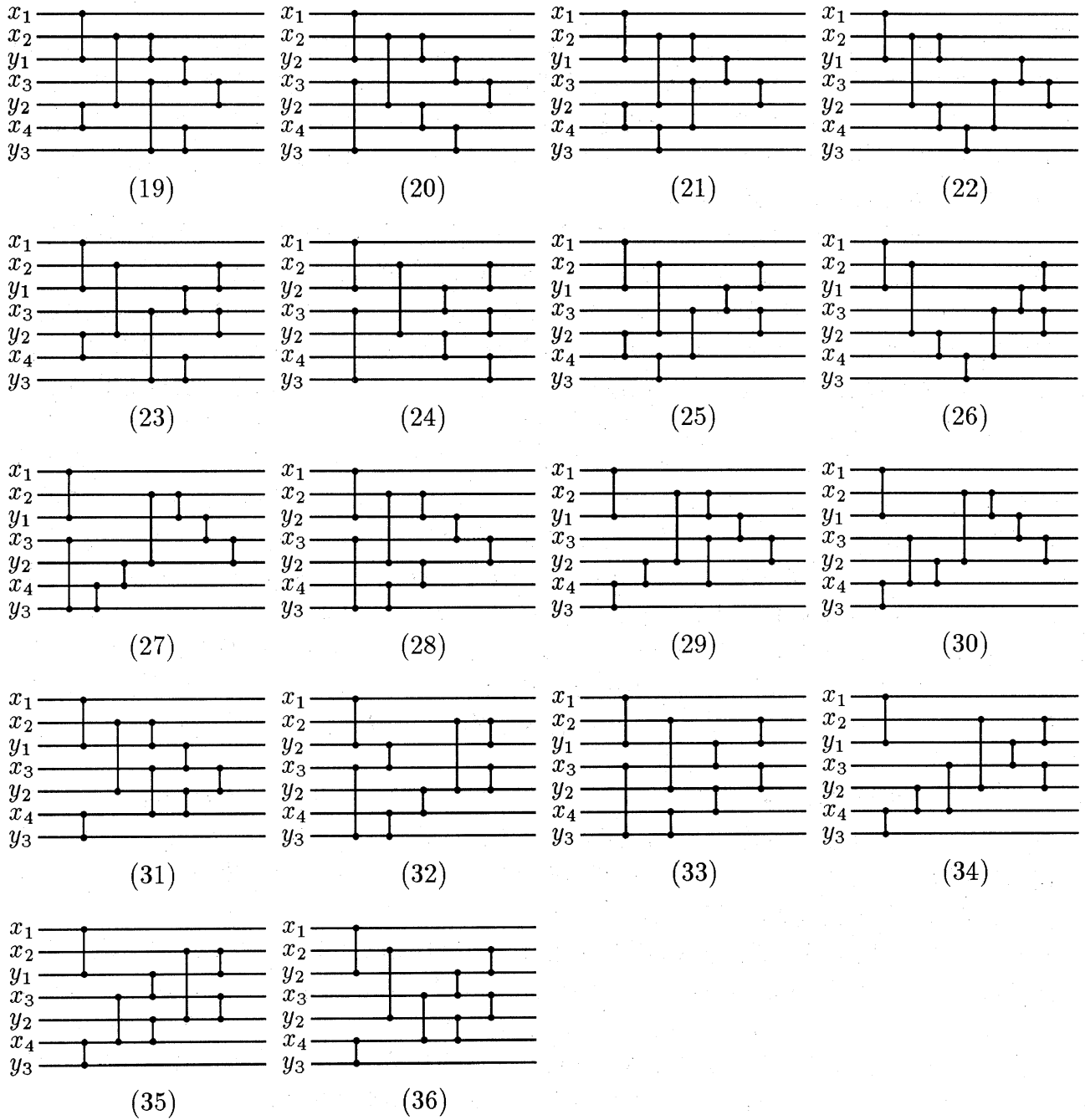


図 7: 入力行の並びを変えた (3,4)-最適マージングネットワーク (その 2)

2 $M(4, 7)$ -マージングネットワーク

命題 1 $M(4, 7) = 16$

(証明の概略) Batcher [1] より $M(4, 7) \leq 16$ なので $M(4, 7) \geq 16$ を示せば十分である。増田、岩田 [4] より $M(4, 6) = 14$ なので、補題 4 より $M(4, 7) \geq 15$ である。そこで以下では $M(4, 7) = 15$ と仮定する。15 比較器で構成可能なすべてのネットワークを生成し、生成したネットワークが $(4, 7)$ -マージングネットワークでなければ $M(4, 7) \neq 15$ すなわち $M(4, 7) = 16$ であることが示せる。

15 個の比較器からなる任意のマージングネットワークを N とする。 N の各行の並びを上から $x_1, x_2, y_1, x_3, y_2, x_4, y_3, x_5, y_4, x_6, x_7$ とする。 N の下 10 入力行からなるサブネットワーク N_1 は $(4, 6)$ -マージングネットワークである。 $M(4, 6) = 14$ なので N_1 には 14 個以上の比較器がある。 x_1 を上端とする比較器が 1 個存在し、かつ N 全体の比較器数は 15 なので N_1 は 14 比較器からなる $(4, 6)$ -最適マージングネットワークである。よって補題 3(1) より比較器 $[x_2 : y_1]$ がただ 1 個存在する。また N の上 3 入力行からなるサブネットワーク N_2 は $(1, 2)$ -マージングネットワークである。以上から N_2 中にはちょうど 2 個の比較器が存在し、 N_2 は $(1, 2)$ -最適マージングネットワークである。補題 5 より N_2 中には 2 比較器 $[x_2 : y_1], [x_1 : z], (z = x_2 \text{ または } z = y_1)$ が存在し、 $[x_2 : y_1] \prec [x_1 : x_2]$ かまたは $[x_1 : y_1] \prec [x_2 : y_1]$ が成り立つ。 $[x_2 : y_1] \prec [x_1 : x_2]$ の場合、入力要素 x_1 が N 中で入力線 y_1 よりもさらに下に移動するとき $[x_1 : x_2] \prec [x_2 : \downarrow y_1]$ となる比較器 $[x_2 : \downarrow y_1]$ が N_1 中に存在する。しかし N_1 は $(4, 6)$ -最適マージングネットワークなので補題 3(2) と矛盾する。よって N_2 中には $[x_1 : y_1], [x_2 : y_1]$ の比較器が存在し、 $[x_1 : y_1] \prec [x_2 : y_1]$ が成立する。同様にして、 N の下 3 入力行 y_4, x_6, x_7 からなるサブネットワークは比較器 $[y_4 : x_7], [y_4 : x_6]$ からなり $[y_4 : x_7] \prec [y_4 : x_6]$ を満たす。

N 中に 8 個の隣接比較器 $[x_2 : y_1], [y_1 : x_3], [x_3 : y_2], \dots, [y_4 : x_6]$ が存在するので、 $[x_1 : y_1], [y_4 : x_7]$ をあわせた 10 個の比較器の上端と下端の位置が確定した。この 10 個の比較器の集合を S_1 とする。 N は 15 比較器からなるので S_1 以外の 5 個の比較器を $\alpha, \beta, \gamma, \delta, \epsilon$ とし、この 5 個の比較器の集合を S_2 とする。

次に S_2 の比較器の上端と下端の位置のとりうる組み合わせを求める。 x_1 を上端とする比較器はただ 1 個 $[x_1 : y_1]$ が存在することはすでに述べた。同様に入力行 x_7 を下端とする比較器もただ 1 個 $[y_4 : x_7]$ であることが示せる。よって $\alpha, \beta, \gamma, \delta, \epsilon$ の比較器はいずれも $[\downarrow x_2 : \uparrow x_6]$ の形をしている。 N の上 5 入力行からなるサブネットワークは $(2, 3)$ -マージングネットワークである。 $M(2, 3) = 5$ なので、 S_2 の比較器のうち少なくとも 1 個はこのサブネットワークに存在する。そこで α を $[\downarrow x_2 : \uparrow y_2]$ とする。 N の上 7 入力行からなるサブネットワークは $(3, 4)$ -マージングネットワークである。 $M(3, 4) = 8$ なので、 S_2 の比較器のうち少なくとも 2 個の比較器がこのサブネットワークに存在する。これらの比較器のうち α 以外の比較器を β とする。 β は $[\downarrow x_2 : \uparrow y_3]$ の形である。 N の上 8 入力行からなるサブネットワークは $(3, 5)$ -マージングネットワークである。 $M(3, 5) = 10$ なので、 S_2 の比較器のうち少なくとも 3 個の比較器がこのサブネットワークに存在する。 α, β 以外の比較器 γ の形を $[\downarrow x_2 : \uparrow x_5]$ とする。 N の上 9 入力行からなるサブネットワークは $(4, 5)$ -マー

ジングネットワークである。 $M(4,5)=12$ なので、 S_2 の比較器のうち少なくとも4個の比較器がこのサブネットワークに存在する。 α, β, γ 以外の比較器 δ の形を $[\downarrow x_2 : \uparrow y_4]$ とする。また ϵ を $[\downarrow x_2 : \uparrow x_6]$ とする。

同様にして N の下5入力行、下7入力行、下8入力行、下9入力行からなるサブネットワークを考えるとそれぞれ(2,3)–、(3,4)–、(3,5)–、(4,5)–マーキングネットワークになっているので各サブネットワーク中に少なくとも S_2 の比較器はそれぞれ1,2,3,4個存在する。

補題 9 N 中の2入力線 y_2, x_4 間と2入力線 x_4, y_3 間の少なくともいずれか一方は S_2 の2比較器が通過する。

(証明) 2入力線 y_2, x_4 間と2入力線 x_4, y_3 間がともに S_2 の1個の比較器が通過すると仮定する。 y_2, x_4 間、 x_4, y_3 間は2個の入力要素が上下どちらからも移動する場合がある。このとき入力要素の移動において1個は S_2 の比較器を使いもう1個は S_1 の隣接比較器 $[y_2 : x_4], [x_4 : y_3]$ を使う。しかし S_1 の比較器では上下どちらか一方にしか入力要素を移動することができない。よって y_2, x_4 間、 x_4, y_3 間のいずれか一方には S_2 の比較器が少なくとも2個は存在しなければならない。□

隣接する入力行間を移動する入力要素の個数を考える。入力行 y_1, x_3 間では最大2個の入力要素が移動する場合がある。よって y_1, x_3 間には少なくとも2個の比較器が通過している。同様に考えると隣接する入力行の間にはそれぞれ上から順に1,2,2,3,2,2,3,2,2,1個の比較器が通過している。 S_2 の比較器について考えるなら入力行 x_3, y_2 間、 y_3, x_5 間にそれぞれ少なくとも2個ずつ、 y_1, x_3 間、 y_2, x_4 間、 x_4, y_3 間、 x_5, y_4 間にそれぞれ少なくとも1個ずつの比較器が存在する。また補題9より y_2, x_4 間、 x_4, y_3 間のいずれか一方には2比較器が存在する。

同一の組み合わせを避けるため、 $c \in \{\beta, \gamma, \delta, \epsilon\}$ に対し c が $[\downarrow x_2 : \uparrow y_2]$ の形なら $\alpha \leq c$ 、 $d \in \{\gamma, \delta, \epsilon\}$ に対し d が $[\downarrow x_2 : \uparrow y_3]$ の形なら $\beta \leq d$ 、また $e \in \{\delta, \epsilon\}$ に対し e が $[\downarrow x_2 : \uparrow x_5]$ の形なら $\gamma \leq e$ とし、 ϵ が $[\downarrow x_2 : \uparrow y_4]$ の形なら $\delta \leq \epsilon$ として $\alpha, \beta, \gamma, \delta, \epsilon$ の上端下端の位置を考える。

さらに次の(1)～(4)が成り立つ。

(1) N 中の上5入力行からなるサブネットワーク中に S_2 の比較器が k ($1 \leq k \leq 5$)個存在するならその k 個のすべての比較器が同時に $[x_3 : y_2]$ の形をしている、ということはない。同様に N 中の下5入力行からなるサブネットワーク中に k ($1 \leq k \leq 5$)個の S_2 の比較器が存在するなら k 個の比較器すべてが $[y_3 : x_5]$ ということはない。

(2) N 中の上6入力行からなるサブネットワークを考える。このサブネットワーク中に1個の S_2 の比較器が存在するのならこのサブネットワークは(2,4)–最適マーキングネットワークになっているので補題6よりその比較器は $[y_1 : x_3]$ ではない。同様に N 中の下6入力行からなるサブネットワークを考える。このサブネットワーク中に1個の S_2 の比較器が存在するのならその比較器は $[x_5 : y_4]$ ではない。

(3) N 中の上8入力行からなるサブネットワークを考える。このサブネットワーク中に3個の S_2 の比較器が存在するのならこのサブネットワークは(3,5)–最適マーキングネット

ワークになっているので γ は $[y_3 : x_5]$ ではない。同様に N 中の下 8 入力行からなるサブネットワークを考える。このサブネットワーク中に 3 個の S_2 の比較器が存在するならこのサブネットワークは (3, 5)-最適マーキングネットワークになっているのでそれらの比較器はいずれも $[x_3 : y_2]$ ではない。

(4) N 中の上 9 入力行からなるサブネットワークを考える。このサブネットワーク中に 4 個の S_2 の比較器が存在するならこのサブネットワークは (4, 5)-最適マーキングネットワークになっているので δ は $[x_5 : y_4]$ ではない。同様に N 中の下 9 入力行からなるサブネットワークを考える。このサブネットワーク中に 4 個の S_2 の比較器が存在するならこのサブネットワークは (4, 5)-最適マーキングネットワークになっているのでそれらの比較器はいずれも $[y_1 : x_3]$ ではない。

S_2 中の比較器として $[x_2 : x_6], [x_2 : y_1], [y_4 : x_6]$ はいずれも冗長なので、 S_2 の比較器はこれら 3 種類のいずれの比較器も含まない。

N 中の上 7 入力行からなるサブネットワーク N_3 を考える。 N_3 中に S_2 の比較器が $[x_4 : y_3]$ を数えずに 2 個しかなければ、 N_3 は S_2 中の $[x_4 : y_3]$ を除いて (3, 4)-最適マーキングネットワークであり、補題 8 より N_3 は図 6, 7 のいずれかの形をしている。このとき比較器 $[x_1 : y_1], [x_2 : y_1]$ が存在し $[x_1 : y_1] \prec [x_2 : y_1]$ を満たすこと、補題 3(2) より比較器 $[x_2 : \downarrow y_1]$ が存在するなら $[x_2 : \downarrow y_1] \prec [x_2 : y_1]$ を満たすこと、上端が入力行 x_1 の比較器はただ一つしか存在しないことを考えると S_2 の 2 個の比較器は次の 4 通りのいずれかになる。

- (1) $[y_1 : y_2], [y_1 : y_2]$, (2) $[y_1 : y_2], [y_1 : x_4]$, (3) $[x_2 : y_2], [x_3 : y_3]$, (4) $[x_2 : y_2], [x_3 : x_4]$

同様に N 中の下 7 入力行からなるサブネットワークを考えると、このサブネットワーク中に S_2 の比較器が $[y_2, x_4]$ を数えずに 2 個しかなければその 2 個の比較器は次の 4 通りのいずれかである。

- (1) $[y_3 : y_4], [y_3 : y_4]$, (2) $[x_4 : y_4], [y_3 : y_4]$, (3) $[y_2 : x_5], [y_3 : x_6]$, (4) $[x_4 : x_5], [y_3 : x_6]$

N の入力線の並びは入力行 x_4 を中心に上下対称に配置されている。 S_2 の組合せで例えば $\alpha = [x_2 : x_3], \beta = [y_1 : y_2], \gamma = [x_3 : x_4], \delta = [y_2 : x_5], \epsilon = [y_3 : x_6]$ と $\alpha = [x_2 : y_2], \beta = [x_3 : y_3], \gamma = [x_4 : x_5], \delta = [y_3 : y_4], \epsilon = [x_5 : x_6]$ は入力行 x_4 に対して上下対称であり一方のみを考慮する。

これらの条件をもとに考えられる S_2 の組み合わせはプログラムを作り実行したところ 311 通りになった。

次に S_1 の 10 比較器だけで構成可能なネットワークについて考えよう。入力行 y_1 を考えると入力行 x_1, x_2, x_3 と比較器でつながっている。すでにみたように 2 個の比較器は $[x_1 : y_1] \prec [x_2 : y_1]$ と定まっているので、比較器 $[y_1, x_3]$ の位置は $[y_1 : x_3] \prec [x_1 : y_1]$ 、 $[x_1 : y_1] \prec [y_1 : x_3] \prec [x_2 : y_1]$ 、 $[x_2 : y_1] \prec [y_1 : x_3]$ の 3 通りが考えられる。入力行 y_4 については 3 通りの場合が考えられ、また入力行 x_3 から x_5 迄の各入力行間にはそれぞれ 2 比較器が接続しているのでそれらの比較器間のとりうる位置関係は 2 通りの場合がある。これらをすべて組み合わせると S_1 の 10 比較器のみによって作られるネットワークは $3 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 2 \times 3 = 288$ 通りになる。

これを S_2 の比較器の組合せ 311 通りと組み合わせて構成できるすべてのネットワーク

を生成した。

このとき、 $[x_2 : y_1] \prec [x_2 : \downarrow y_1]$ のような比較器 $[x_2 : \downarrow y_1]$ を含むネットワークは、補題 3(2) より N_1 が (4,6)-最適マーキングネットワークであることと矛盾するので考慮しない。また、 $[y_4 : x_6] \prec [\uparrow y_4 : x_6]$ のような比較器 $[\uparrow y_4 : x_6]$ を持つネットワークも考慮しない。

そして構成したネットワークがマーキングネットワークか調べた。構成可能なネットワークは 3,086,249,058 通りであった。この全てがマーキングネットワークにならなかったことを確認した。プログラムは C 言語でかき、JU1/170 (Ultra SPARC, 167MHz, SPECint92:252) を 2 台と JS5/110 (microSPARC-II, 110MHz, SPECint92:78.6) を 4 台同時に使い実行した。プログラムは 422 行で 6 台の平均実行時間は 4 時間 27 分であった。

プログラム検証のため本稿の 2 著者がそれぞれ独立にプログラムを書き、 S_2 の 5 比較器の組合せの 311 通りの各々の場合について構成したネットワークの数を数え上げ、その数が一致することを確認し、2 種類のプログラムにより同じ結果が得られたことを確認した。

以上により $M(4,7) = 16$ が示された。□

3 $M(5,6)$ -マーキングネットワーク

命題 2 $M(5,6) = 16$

(証明の概要) Batcher [1] より $M(5,6) \leq 16$ なので $M(5,6) \geq 16$ を示せば十分である。増田、岩田 [4] より $M(4,6) = 14$ なので、補題 4 より $M(5,6) \geq 15$ である。そこで、以下では $M(5,6) = 15$ と仮定する。15 比較器で構成可能なすべてのネットワークを生成し、生成したネットワークが (5,6)-マーキングネットワークでなければ $M(5,6) \neq 15$ すなわち $M(5,6) = 16$ であることが示せる。

15 個の比較器からなる任意のマーキングネットワークを N とする。 N の各行の並びを上から $x_1, y_1, x_2, y_2, x_3, y_3, x_4, y_4, x_5, y_5, x_6$ とする。 N 中に 10 個の隣接比較器 $[x_1 : y_1], [y_1 : x_2], [x_2 : y_2], \dots, [y_5 : x_6]$ が存在するので 10 個の比較器の上端と下端の位置が確定する。この 10 個の比較器の集合を S_1 とする。また N は 15 比較器からなるので S_1 以外の 5 個の比較器を $\alpha, \beta, \gamma, \delta, \epsilon$ とし、この 5 個の比較器の集合を S_2 とする。

次に S_2 の比較器の上端と下端の位置のとりうる組み合わせを求める。 N の上 5 入力行からなるサブネットワークは (2,3)-マーキングネットワークである。 $M(2,3) = 5$ なので、 S_2 の比較器のうち少なくとも 1 個はこのサブネットワークに存在する。そこで α を $[\downarrow x_1 : \uparrow x_3]$ とする。 N の上 7 入力行からなるサブネットワークは (3,4)-マーキングネットワークである。 $M(3,4) = 8$ なので、 S_2 の比較器のうち少なくとも 2 個がこのサブネットワークに存在する。これらの比較器のうち α 以外の比較器を β とする。 β は $[\downarrow x_1 : \uparrow x_4]$ の形である。 N の上 9 入力行からなるサブネットワークは (4,5)-マーキングネットワークである。 $M(4,5) = 12$ なので、 S_2 の比較器のうち少なくとも 4 個がこのサブネットワークに存在する。 α と β 以外の比較器を γ と δ としその形を $[\downarrow x_1 : \uparrow x_5]$ とする。また ϵ を $[\downarrow x_1 : \uparrow x_6]$ とする。

同様にして N の下 5 入力行、下 7 入力行、下 9 入力行からなるサブネットワークを考えるとそれぞれ (2,3)-, (3,4)-, (4,5)-マーキングネットワークになっているので各サブ

ネットワーク中に少なくとも S_2 の比較器がそれぞれ 1, 2, 4 個存在する。

隣接する入力行間を移動する入力要素の個数を考える。入力行 x_2, y_2 間では最大 2 個の入力要素が移動する場合がある。よって x_2, y_2 間には少なくとも 2 個の比較器が通過している。同様に考えると隣接する入力行の間にはそれぞれ上から順に 1, 1, 2, 2, 3, 3, 2, 2, 1, 1 個の比較器が通過している。 S_2 の比較器について考えるなら入力行 x_3, y_3 間、 y_3, x_4 間にそれぞれ少なくとも 2 個ずつ、 x_2, y_2 間、 y_2, x_3 間、 x_4, y_4 間、 y_4, x_5 間にそれぞれ少なくとも 1 個ずつの比較器が存在する。

同一の組み合わせを避けるため、 $c \in \{\beta, \gamma, \delta, \epsilon\}$ に対し c が $[\downarrow x_1 : \uparrow x_3]$ の形なら $\alpha \leq c$ 、 $d \in \{\gamma, \delta, \epsilon\}$ に対し d が $[\downarrow x_1 : \uparrow x_4]$ の形なら $\beta \leq d$ 、 $e \in \{\delta, \epsilon\}$ に対し e が $[\downarrow x_1 : \uparrow x_5]$ の形なら $\gamma \leq e$ 、 ϵ が $[\downarrow x_1 : \uparrow x_5]$ の形なら $\delta \leq \epsilon$ として $\alpha, \beta, \gamma, \delta, \epsilon$ の上端下端の位置を考える。

N 中の任意の隣接する 5 入力行からなるサブネットワーク N_1 を考える。このとき入力行を上から z_1, z_2, z_3, z_4, z_5 とする。 N_1 中に S_2 の比較器が 1 個しか存在しなければ N_1 は最適 (2, 3)-マーキングネットワークである。このとき S_2 の比較器は $[z_1 : z_2], [z_1 : z_5], [z_4 : z_5]$ でない。次に N 中の任意の隣接する 9 入力行からなるサブネットワーク N_2 を考える。このとき入力行を上から $z_1, z_2, z_3, z_4, z_5, z_6, z_7, z_8, z_9$ とする。 N_2 中に S_2 の比較器が 1 個しか存在しなければ N_2 は最適 (4, 5)-マーキングネットワークである。このとき S_2 の比較器は $[z_1 : z_2], [z_1 : z_9], [z_8 : z_9]$ でない。また N 中の比較器として $[x_1 : y_1], [x_1 : x_6], [y_5 : x_6]$ はいずれも冗長なので、 S_2 の比較器はこれら 3 種類のいずれの比較器も含まない。

N 中の任意の隣接する 7 入力行からなるサブネットワークに S_2 の比較器が 2 個しかなければそのサブネットワークは (3, 4)-最適マーキングネットワークであり、補題 8 より図 4, 5 のいずれかの形をしている。この場合 S_2 の 2 比較器の組み合わせは 8 通りである。また N 中の任意の隣接する 6 入力行からなるサブネットワークに S_2 の比較器が 1 個しかなければそのサブネットワークは (3, 3)-最適マーキングネットワークであり、補題 7 より図 3 のいずれかの形をしている。このとき S_2 の比較器の形は 4 通りである。

N の入力線の並びは入力行 y_3 を中心に上下対称に配置されている。 S_2 の組合せで例えば $\alpha = [x_1 : y_2], \beta = [x_2 : y_3], \gamma = [x_3 : x_4], \delta = [x_3 : y_4], \epsilon = [x_4 : y_5]$ と $\alpha = [y_1 : x_3], \beta = [y_2 : x_4], \gamma = [x_3 : x_4], \delta = [y_3 : x_5], \epsilon = [y_4 : x_6]$ は入力行 y_3 に対して上下対称であり一方のみを考慮する。

これらの条件をもとに考えられる S_2 の組み合わせはプログラムを作り実行したところ 1061 通りになった。与えられた 5 個の比較器の情報をもとに既に決まっている 10 個の比較器と組み合わせてネットワークを構成する。15 比較器からなるすべてのネットワークを構成するのに必要な計算時間は $M(4, 7)$ の計算よりも数倍時間がかかることが予想された。そこでサブネットワークに注目し全体を 3 通りの場合に分けて計算に改良を加えた。

(1) 隣接する 7 入力行からなるサブネットワークを考える。サブネットワーク中に S_2 の比較器が 2 個しかない場合、このサブネットワークは (3, 4)-最適マーキングネットワークである。このサブネットワークは補題 8 の 36 通りのネットワークのいずれかの形をしている。実際にはサブネットワーク中の S_2 の 2 個の比較器の形から調べると 4 ~ 5 通りが該当する。これを元に残りの比較器を付け加えていくことによりネットワーク全体を構成する。

(2) 隣接する 6 入力行からなるサブネットワークを考える。サブネットワーク中に S_2 の比較器が 1 個しかない場合このサブネットワークは (3, 3)-最適マーキングネットワークで

ある。このサブネットワークは補題 7 の 4 通りのネットワークのいずれかの形をしている。サブネットワーク中にある S_2 の比較器の形からただ 1 通りの形を特定できる。これを元に残りの比較器を付け加えていくことによりネットワーク全体を構成する。

(3) (1)、(2) のどちらの場合にも当てはまらないとき。 $M(4, 7)$ の計算のように S_1 の 10 個の隣接比較器からなるネットワークを作る。このネットワークは $2^9 = 512$ 通りある。これを S_2 の比較器の組合せと組み合わせて構成できるすべてのネットワークを生成する。

1061 通りの S_2 の組合せのうち (1) の場合が 536 通り、(2) の場合が 466 通り、(3) の場合が 59 通りであった。

以上の 3 通りの方法を用いネットワークを構成した。このとき、 $[x_1 : y_1] \prec [x_1 : \downarrow y_1]$ のような比較器 $[x_1 : \downarrow y_1]$ を含むネットワークは補題 3(2) より (5, 6)-最適マーキングネットワークでない。また、 $[y_5 : x_6] \prec [\uparrow y_5 : x_6]$ のような比較器 $[\uparrow y_5 : x_6]$ を持つネットワークも同様に (5, 6)-最適マーキングネットワークでない。この様な (5, 6)-マーキングネットワークにならない比較器の組み合わせは取り除いた。そして構成したネットワークが (5, 6)-マーキングネットワークかを調べた。構成可能なネットワークは 926,032,127 通りであった。この全てがマーキングネットワークでないことを確認した。プログラムは C 言語でかき、JU1/170 を 2 台と JS5/110 を 4 台同時に使い実行した。プログラムは 1275 行で 6 台の平均実行時間は 1 時間 34 分であった。

プログラム検証のため本稿の 2 著者がそれぞれ独立に上と異なるプログラムを作り、すべての 15 比較器からなるネットワークが (5, 6)-マーキングネットワークでないことを確認した。計算方法は $M(4, 7)$ の計算に用いたものと同じであり JU1/170 1 台で実行したときの計算時間はそれぞれ 4 日、14 日であった。

以上により $M(5, 6) = 16$ が示された。□

参考文献

- [1] K.E.Batcher, Sorting networks and their applications, *Proc. AFIPS 1968 SJCC* 32 AFIPS Press (1968) 307-314.
- [2] A.C.Yao and F.F.Yao, Lower bounds on merging networks, *J. Assoc. Comput. Mach.* **23** (1976) 566-571.
- [3] M.Aigner and O.Schwarzkopf, Bounds on the size of merging networks, *Discrete Applied Math.* **61** (1995) 187-194.
- [4] 増田一寿, 岩田茂樹, マーキングネットワークの下界について, 信学論 D-I **J80-D-I**, (1997) 665-673.
- [5] I.Parberry, A computer-assisted optimal depth lower bound for nine-input sorting networks, *Math. Systems Theory* **24** (1991) 101-116.
- [6] D.E.Knuth, *The Art of Computer Programming Vol.3: Sorting and Searching*, Addison-Wesley (1973).
- [7] K.Yamazaki, H.Mizuno, K.Masuda, S.Iwata, Minimum number of comparatur in (6,6)-merging network, 投稿中